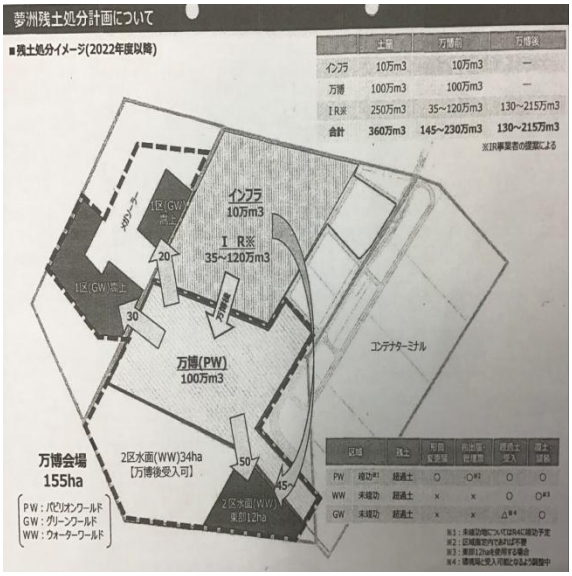
「汚染土処分」でも万博とIRカジノは一体化

写真は昨日レポートで紹介した「夢洲残土処分計画」の残土処分イメージ(2022年度以降)である。これを見ると万博会場予定地の夢洲2区、1区、それとIRカジノ予定地の夢洲3区が相互に関係していることがわかる。2025年予定の万博開催前と開催後の動きも読みとれる。まさに夢洲の汚染土処分をめぐっても、万博とIRカジノは「一体化」している。



万博開催までに夢洲内で145～230万m3の土砂受入場所を確保する必要があり、夢洲2区の南東部水面（ウォーターワールド）12haの地盤改良を実施し、受入容量を100万～140万m3確保。

万博パビリオンワールドから50万m3、IR関連から45万～受入。2区水面の残り34haは万博後に受入可。万博パビリオン等の基礎工事で掘削した土砂約50万m3を1区地盤の嵩上げに活用する予定。

その後、大阪港湾局と博覧会協会とで依頼、回答の「やり取り」があり、令和3年11月10日に港湾局から「地盤改良（夢洲南東部12ha）概要」が提出。12月10日に協会から写真の「WW（ウォーターワールド）南東部における土砂処分について」が提出。

■協会としての対応方針

・WW南東部約12haにおいて、残土受入れ及び敷き均しを行う方向で、会場計画を変更する

■市への要請事項

・万博工事残土を最優先に受入れ、市が敷き均しを行われたい

・環境保全に配慮した緑化を提案、設計し整備されたい

・IR・インフラ残土の搬入にあたっては万博会場整備への影響が最小限となるよう搬入ルート等調整願う

・迎賓館等からの見え方、安全確保に配慮が必要であり、設計・施工調整願う

（2022年9月7日）